

「この宝、土の器の中に」

詩篇

第116篇 5節～10節

コリント人への第二の手紙 第4章 7節～15節

説教 本庄侑子 伝道師

「しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。」(7節)わたしたちは宝を持っています。〈測り知れない神の力〉という宝です。一方、わたしたちは土の器です。ちょっとした衝撃でヒビが入り崩れてしまう、もろい存在です。

しかし、神の力は、土の器がこう語ることを可能にしてくれました。「わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。」(8節、9節)この言葉を語ったパウロは、こうも言っています。「このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させる」(17節)。パウロが負った患難は、決して軽くはありませんでした(第11章24節～27節を参照)。しかし、これらをもってしても「軽い」と言わしめる力が、パウロの中に宿っていました。

「いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。わたしたち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されているのである。それはイエスのいのちが、わたしたちの死ぬべき肉体に現れるためである。」(10、11節)パウロが身に負う「イエスの死」は、私たちを罪から救い出すために、最大の犠牲を払ってくださった神の愛のあらわれでした。それは死で終わらず、3日目の朝、よみがえられたいのちでもありました。

洗礼を受け、キリストのものとして生き始めるということ。それは、死からよみがえられたキリストのいのちが、聖霊のお働きによって私たちの中に宿り、私たちの体を通して、この世界に向かって生きて働いてくださるということです。主イエスを信じたからといって患難がなくなるわけではありません。むしろ、その中を歩み続けます。しかし、それはもう孤独で無用の苦しみではありません。キリストのものとして通る苦しみは、キリストが味わわれた十字架の苦しみであり、よみがえりのいのちと分かち難く一つだからです。

「患難は働いて」の「働く」は「産み出す」という意味を持ちます。キリスト者が会おう患難は「永遠の重い栄光」を産み出すために働いているのです。無意味に思えるような毎日の患難が、実は永遠の重い栄光を産み出している。

だから、わたしたちが繰り返す毎日の労苦は無意味ではない。誰も見ていない所で、黙々と教会のため、家族のため、隣人のために、労苦している兄弟姉妹の姿を目にします。時に行き詰まります。叫びます。不平不満を言うこともあまるでしょう。しかしなお、逃げずに負い続けておられる。その生活の中にこそ、神の力が働き、主イエスのいのちのわざが現れているのです。

「こうして、死はわたしたちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのである。」(12節)生活の中でキリストの苦しみと死にあずかる私たちを通して、「あなたがた」という誰かの内にいのちが働きます。キリスト者の生活は自分自身のためを越えて、他の人たちに主イエスのいのちが生み出されるためにあるのです。

世は様々な力を求めます。私が患難から逃れるための力。私の願いをかなえる力。しかし、キリスト者は、「わたしたち」の患難を通して、「あなたがた」に主イエスのいのちが現れることを求めます。この時のパウロにとっての「あなたがた」は敵でした。しかし、神の力が宿っていたパウロは、誹謗中傷を浴び、キリストの苦しみと死とを味わい尽くしながらも、自分の体が関わる人々に現れるイエスのいのちをこそ望み見て、愛の労苦を続けました。

「それは、主イエスをよみがえらせたかたが、わたしたちをもイエスと共によみがえらせ、そして、あなたがたと共にみまえに立たせて下さることを、知っているからである。」(14節)彼らにもイエスのいのちが現れる。今は敵対しているとしても、彼らの内にも神の力が働いて、終りの日、共に神の御前に立つ。「すべてのことは、あなたがたの益であって、恵みがますます多くの人に増し加わるにつれ、感謝が満ちあふれて、神の栄光となるのである。」(15節)神の力は、患難や敵意を打ち破って現れ出る、神への感謝と神の栄光という幻に向かって、パウロに愛の労苦を続けさせました。

神の力は、私たちの中にも働いて、愛の労苦を負う人生へと導きます。神が、私たちに永遠の重い栄光を得る人生を歩ませ、私たちが関わる人々にいのちのわざを現すためです。私たちは自分を諦めなくていい。関わる人々をも諦めなくていい。たとえ敵であっても愛の労苦を続けていいのです。土の器の中には、測り知れない神の力という宝が宿っているのです。

(記 本庄侑子)